

シラバス参照

科目名	緩和医療学
配当年次	4年次
開講期間	後期
単位数	2
担当教員	細谷 治(ホソヤ オサム)
期間・曜日・時限・教室	後期 金曜日 3時限 18-102

※	
授業の目的・目標	がんをはじめとする生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族のQOLの向上を目的に、痛みやその他の身体的、心理社会的な問題を理解し、緩和ケアに関わる薬剤師および管理栄養士としての確かなアセスメントを実施し、有効性と安全性の両側面から治療に貢献できる能力を身につける。また、死を正しく理解し医療人として、死生観についても考えられるようになる。さらに専門職連携教育(IPE)の手法を取り入れ、コミュニケーションやプロフェッショナリズムについても考えられるようになる。
準備学習等の指示	授業開始前には必ず講義スケジュールにより当日の授業内容を確認し、授業終了後には必ず教科書・資料等により、当日の授業内容のポイントを再確認してください。
講義スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 緩和ケア総論-1(導入) 緩和ケアとは(定義)、課題、展望、人としての関わり方など 緩和ケア総論-2 死を正しく理解し、生と死について考える 全人的ケア 全人的ケアの定義、事例 痛みの理解とアセスメント 痛みの分類、機序、評価など 痛みのマネジメント-1 WHO方式がん疼痛治療法の理解 オピオイド-1(作用機序、効果の確認、副作用への対応など) 痛みのマネジメント-2 オピオイド-2(各オピオイドの臨床的特徴について) 痛みのマネジメント-3 非オピオイド鎮痛薬(アセトアミノフェン、NSAIDsの特徴と使い方など) 痛みのマネジメント-4 鎮痛補助薬(種類と使い方など) 痛み以外の症状マネジメント-1 消化器症状(吐気・嘔吐、便秘、食欲不振など)の理解と対応 呼吸器症状(呼吸困難など)の理解と対応 痛み以外の症状マネジメント-2 骨転移痛、抑うつ、せん妄などへの対応、 終末期の食事・栄養管理、その他の症状 コミュニケーション 患者・家族の気持ちを理解する 症例を通して専門職連携実践(IPW)を考える 薬剤師、管理栄養士の役割、専門職種連携、IPW論など IPW演習・緩和医療学(専門職連携実践: Interprofessional Work)-チーム医療を学ぶ-1<彩の国連携科目> 埼玉県立大学、埼玉医科大学、日本工業大学の学生との合同演習(症例検討、支援計画の作成) IPW演習・緩和医療学(専門職連携実践: Interprofessional Work)-チーム医療を学ぶ-2<彩の国連携科目> 埼玉県立大学、埼玉医科大学、日本工業大学の学生との合同演習(症例検討、支援計画の作成) リフレクション・まとめ
教科書	プリント他
参考文献	茅根義和、細谷 治編著、臨床医のくすり箱 医療用麻薬、2011、南山堂 日本緩和医療薬学会編集、緩和医療薬学、2013、南江堂

	<p>余宮きのみ、ここが知りたかった緩和ケア、増補版、2016、南江堂 茅根義和、他、チャレンジ・在宅がん緩和ケア、改訂2版、南山堂 日本緩和医療学会編、がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン2014年版、金原出版 日本緩和医療学会編、苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン2010年版、金原出版 日本緩和医療学会編、終末期がん患者の輸液療法に関するガイドライン2013年版、金原出版 Oxford Textbook of Palliative Medicine 4th edition、Oxford University Press</p>
授業の方法	講義、IPW演習(グループディスカッション、カンファレンス)
成績評価方法	試験90%、演習時の態度10%
オフィスアワー	講義日の講義終了後
居室	細谷(21-423)
ホームページ	
その他特記事項	<p>授業はインタラクティブに行います。多くの学生が普段あまり考える事のない領域(がんの終末期、死、緩和医療など)に光を当てます。また、最新の教育手法IPW演習や外部講師による講義も取り入れ、緩和ケアについて自ら考える力を身につけることを目指します。</p> <p>薬学科4～6年生、医療栄養学科3年生の履修が可能です。</p>
添付ファイル	